

よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて
研究主題 生活を工夫し創造する生徒の育成をめざす技術・家庭科教育
～問題を見極め課題を設定し解決する学習とその評価～

I 本研究会の概要

研究部、総務部、事業部で組織され、研究部では各領域内容の研究を通して、また、総務部、事業部ではものづくり競技会や作品展の企画・運営を通し、教員の資質向上を目指している。

II 本研究会の研究・事業等の基本方針

- (1) 新学習指導要領が全面実施されたことを踏まえ、技術・家庭科で養うべき資質・能力と3学年間を見通した学習過程との関連を図ること。
- (2) 「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育成することを踏まえつつ、「協働して作業する能力」と「主体性」を育てる指導方法を工夫すること。
- (3) 「見方・考え方」を働かせ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図ること。
- (4) 研究活動を通して、各部や各地域の研究活動の充実と人材育成を図ること。
- (5) 研究活動において、東京都内をはじめ近郊の大学と連携し、これまでの全国大会・関東甲信越大会の成果をもとに、さらなる研究の推進を行うこと。

III 研究主題設定の理由

本研究会では、生徒が社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等や協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等、技術や生活の営みに係る「見方・考え方」におけるものの捉え方や着目するポイントなどを用いて、よりよい生活や持続可能な社会の実現に向けて問題を見極めること、見極めた問題について「見方・考え方の視点」を用いて課題を設定すること、設定した課題を解決できることなど、見方・考え方を働かせる学習題材を工夫するとともに、問題を見極め、課題を設定し解決する学習を3年間を見通して計画的に繰り返すことで、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて生活を工夫し創造する生徒が育成できるであろう。さらに、学習指導と学習評価の方法を明らかにすることができれば、子供の学びを質的に高め、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて生活を工夫し、創造する資質・能力を育成することができると考え、研究の主題を設定し、研究を進めた。

IV 研究体制

本教科の技術、家庭両分野の各内容の構成に基づき、次の8つの専門研究委員会を組織し、研究を実施した。

- ①「材料と加工の技術」 ②「生物育成の技術」
- ③「エネルギー変換の技術」 ④「情報の技術」
- ⑤「家族・家庭生活」 ⑥-1「食の生活」
- ⑥-2「衣住の生活」 ⑦「消費生活・環境」

V 研究内容等

各研究委員会の研究内容等は次のとおり。最新情報及び詳細な内容については、本研究会 Web サイトを参照されたい。(東京都中学校技術・家庭科研究会 <http://ajgika.ne.jp/~tokyo/>)

- ① イノベーションにつながる問題発見・課題解決学習
～学校の机を使いやすくできる製品開発を通して～
- ② 生物育成の技術と生活との関わりを理解し持続可能な社会の構築をめざす生徒の育成
～独自の課題によるダイコンの袋栽培を通して～
- ③ 持続可能な社会の実現を目指し、主体的に技術を工夫し創造することができる生徒の育成
～モデル製作による問題解決学習を通して～
- ④ 持続可能な社会の実現に向けてよりよい社会の作り手を育てる情報の技術の指導
- ⑤ よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、家族や地域の人々と協働し、よりよい家庭生活を営もうとする生徒の育成
～問題を見極め課題を設定し解決する学習活動を通して～

- ⑥-1 よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて健康で豊かな食生活を実践しようとする生徒の育成
～問題を見極め課題を設定し解決する学習活動を通して～
- ⑥-2 よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて衣生活、住生活を工夫し創造する生徒の育成
～問題を見極め課題を設定し解決する学習活動を通して～
- ⑦ よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、自立した消費者として責任ある消費行動のとれる生徒の育成
～問題を見極め課題を設定し解決する学習活動を通して～

VI 主な事業等

- 夏季実技研修会
- ものづくりフェア in TOKYO
- ものづくりフェア全国大会 関東甲信越地区予選
- 全国中学生創造ものづくり教育フェア

<連絡先>

団体名		東京都中学校技術・家庭科研究会
代表者	所属	台東区立浅草中学校
	職 氏名	校長 瀬川 真也
	連絡先	03-3866-5169
事務局	所属	目黒区立第十一中学校
	職 氏名	校長 田井 俊行
	連絡先	03-3718-6506